









■標準型のカリキュラム〈学習の内容・目標と評価の観点〉

第1学年

第1・2学年①

◎めあて

-  心を開いて友達のことを知り、材料をたのしむ
-  試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する
-  形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う

学期	時間	指導要領	めあてと重点活動	題材名	学習の内容	評価の観点 	主な材料・用具	小・中一貫の視点
1学期・22時間	2時間 教科書8・9ページ	表現 (2) 	 すきなものをたくさんかいてたのしむ	すきなもののついで	<p>☆心を開いて、友達のことを知り、材料をたのしむ題材である。</p> <p>好きなものや好きなことを思いついて、気楽に何枚もかくことのたのしさを味わう内容である。</p> <p>用紙は小さく切ったものでも、大きい紙でも、折り紙でもよい。子どもが画用紙を選んで、かきたいものを次々にたくさんかく。</p> <p>1枚の絵を仕上げるのではなく、小さな画面にクレヨンやカラーペンなどの使いやすい描画材料でかいていく。かきながら、自分が好きなものを確認していくことも大切である。</p>	<p>関: 思いついたままに絵をかくことをたのしむ。</p> <p>発: 自分の好きなもの、かきたいものを見つけ、想像しながらかく。</p> <p>創: クレヨンやその他の描画材料の感触を確かめながら、自分の好きな形や色を自由に使っていく。</p> <p>鑑: たくさんかいた絵を見たり、友達と見せ合っで交換したり、つないで飾ったりして、たのしく見る。</p> <p>【共】 かきたいものを見つけ、描画材料の感触を確かめながら、形や色をとらえ、これをもとに自分の好きなもの、かきたいもののイメージをもつ。</p>	<p>教師: 画用紙(各色、様々な形、大きさでよい)</p> <p>児童: クレヨン、パス、カラーペン</p>	<p>パスやクレヨンの基本的な技法で、好きな形や色を自由に使い、思いのままに表現する活動である。</p> <p>小学校生活を始めたばかりの子どもたちの心を開き、描画に取り組む安心感を与える題材である。これが今後の表現活動への意欲を支え、パスや絵の具などの描画材を使った表現方法、画面構成の工夫へとつながっていく。</p>
	2時間 教科書10ページ	表現 (1) 	 くちやすななつのしぜんのめぐりくぐりたのしむ	しぜんとなかよし	<p>☆心を開いて、友達のことを知り、材料をたのしむ題材である。</p> <p>自然の材料で形や色、触り心地を確かめながら、たのしく活動する造形遊びの内容である。</p> <p>学校の校庭や近くの公園などの自然を利用して、その場所にある自然の材料(石、葉、砂、草木など)の形や色、質感などのおもしろさや美しさに関心をもち、集め、それらの材料の特徴から発想し、並べたり、組み合わせたり、積んだり、身にまったりしながら、自然の材料とのかかわりを深めてたのしむ。</p>	<p>関: 自然の材料を使った活動をたのしむ。</p> <p>発: 自然の材料の形や色、質感などのおもしろさに気づき、それらを生かしながら活動する。</p> <p>創: 体全体を使い、自分の考えたことや友達と一しょになって考えたことをもとにして活動を進める。</p> <p>鑑: 自然に親しむとともに、自他の活動のよさやたのしさを感じ取る。</p> <p>【共】 自然の材料の感触、形や色をとらえ、それをもとに、してみたい活動のイメージをもつ。</p>	<p>教師: 展開される活動を予想して、補助的な材料・用具を準備</p> <p>児童: 活動しやすい服装</p>	<p>校庭や造形砂場で触覚や視覚を十分に働かせながら、友達と一緒に活動し、何かをつくり出すことで、幼児期には何気なく見てきた自然物の手触り、色、におい、温度などに気づくことができる。</p> <p>また、学校内の施設に慣れ、友達との関係を深めることができる。これが中学年で自然物を自分の思いに合わせて工夫することができるようになることへとつながる。</p>

1学期・22時間	2～4時間 教科書11ページ	表現(2) Ⅰ	 ひかりをとおすもののつくりかたを いかしてつくる	ひかりのくいのなかまたち	☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う題材である。 ここでは、透明なセロハン袋の中に色セロハンや銀紙を詰め、透過光や反射光の美しさを確かめながらつくる内容である。 色セロハンや銀紙を入れる量を加減しながら、透過光の美しさやおもしろさを見つける。袋の結ぶ部分を考えたり、いろいろな形の袋をつなげたりして、表したい感じになるように工夫する。できたものを教室の窓際につるすなどして、光の美しさをたのしむ。安全面では、裸眼で太陽を見ないように注意したい。	関：透明なセロハン袋の中に色セロハンや銀紙を詰め、光を通して見える美しさやおもしろさに関心をもち、セロハン袋を使ってつくることをたのしむ。 発：材料を詰めたセロハン袋を光を通して見える形や色から想像を広げ、表したいものを思いつく。 創：色セロハンなどを袋に入れたときの偶然のおもしろさや、袋をつなげるなどしてできるたのしい感じを生かしてつくる。 鑑：作品を光にあてて見せ合いながら、光の美しさに気づく。 【共】色セロハンの色や、袋に詰めた形をとらえ、それをもとにしてつくりたいもののイメージをもつ。	教師：いろいろな大きさのセロハン袋、色セロハン 児童：光を透過したり反射したりするもの（お菓子の包み紙やアルミホイルなど）、セロハンテープ、カラーペン、はさみ、のり	セロハンなどの紙の透過性に気づき、試行錯誤しながら、透過性を生かした活動することにより、光を通す材料の特徴や操作性をたのしむことができる。 この経験がペットボトルや和紙など光を通す材料への関心や、その特徴を生かした造形への基礎となっていく。
	2時間 教科書12・13ページ	表現(2) Ⅱ	 すきなものをいろいろおもいで ながら、つくりかたをきいてつくる	みてみて、いっぱいにつくたよ	☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。 粘土の心地よい感触を味わいながら、丸めたり、伸ばしたりして、遊びながらできた形から表したいものを思いつき、つくり方を工夫する内容である。 子どもの手で扱える程度の粘土の量で複数個つくり、そこからお話をつくっていくように、たのしみながら表したいものや表し方をふくらませていく。つくったものを集めて、友達とたのしく遊ぶ。	関：土粘土の心地よい感触を味わい、粘土で表すことをたのしむ。 発：丸めたり、伸ばしたりして粘土でつくったいろいろな形から、表したいものを思いつく。 創：丸める、伸ばす、引き出す、つけるなどの粘土の基本的な操作に慣れる。 鑑：複数個つくったものを集めて話したり、友達のつくったものと合わせて遊んだりする。 【共】粘土をいろいろな形につくり、つくり変えながら、粘土の感じをとらえ、自分のつくりたいもののイメージをもつ。	教師：土粘土（一人1kg、教科書ではテラコッタ粘土を使用）、粘土板 児童：タオル	幼児期に油粘土、紙粘土などを体験したであろうが、土粘土は初めてかもしれない。手で触った冷たい感じや手にくっつく感じなどに抵抗がありそうな子どもには、少量の粘土でひもや団子状のものから始めさせるとよい。 粘土による立体制作は中・高学年につながることから、ここでは安心感をもって粘土に向かい、活動できるようにしたい。
	4時間 教科書14ページ	表現(2) Ⅲ	 かみをおったり、きったりして かざりをつくる	チョンチョンかざりをつく	☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う題材である。 ここでは、紙を折って切り込みを入れたり、切り抜いたりして開き、新しい形をつくる方法について知り、展示方法を考えて飾りをつくる内容である。 どのように折ったり、切ったりしたらたのしいか、できる形をイメージしながら、様々に試しながらつくる。 見つけたつくり方を教え合ったり、教室や廊下の飾り方を友達どうして相談し合ったりして、さらに発想を広げ、たのしみをわかち合う。	関：紙を折ったり、切ったりして、つくり方を工夫することをたのしむ。 発：紙を折ってできた形から、どのような飾りができるか、発想を広げる。 創：紙の折り方や切り方を試しながら、新しい表し方を見つけて表す。 鑑：友達と一緒につなげて飾ったり、つくったもので遊んだりしながら、自分や友達の表現のよさを味わう。 【共】折ったり、はさみで切ったりした色紙の形や色の組み合わせをもとにつくりたいもののイメージをもつ。	教師：各種色紙、のり下紙（わら半紙など） 児童：折り紙、はさみ、のり	はさみの使用については、幼児期に体験していると思うが、十分に習熟させる必要がある。 はさみの元まで紙を入れて長くつなげて切ったり、丸くきったりするときは、紙の方を動かして切るなど、はさみの基本的な技能をしっかりと身につけさせたい。

学期	時間	指導 要領	めあて と重点 活動	題材 名	学習の内容	評価の観点	主な材料・用具	小・中一貫の視点
1学期・22時間	2時間 教科書・15ページ	表現 (1) 遊	 くうきを入れたふわふわポンポンをつくって遊ぶ	ふわふわポンポン	☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。 身近にあるポリ袋やかさ袋などに空気を入れた感触を確かめながら、そこから思いつく造形的な活動を通して材料に働きかけ、工夫して表現するたのしさを味わう内容である。 空気を入れたいろいろな袋で遊びながら材料に親しみ、そこから感じたことをもとにつくりたい思いをもつ。袋をつなげたり、組み合わせたりして、工夫しながら自分の思いを表したり、新しい考えをもったりする。途中で自分の活動を見直したり、友達と見合ったりしながら、思いついたことをカラーペンでかいたり、友達と一緒ににつくったりするなど活動を広げてよい。	関：空気を入れた袋を使って活動するたのしさを味わう。 発：材料をもとに感じたイメージから、つくりたい思いをもったり、つくりながら感じて、思いついたりする。 創：材料の手触りや大きさ、形などを生かしながら、つなげたり組み合わせたりするなど、体全体を働かせて活動する。 鑑：体全体で材料にかかわるとともに、自分の活動を見直ししたり、友達と見合ったりしながら、活動のおもしろさや材料の感じに気づく。 [共] 空気を入れた袋を触ったり、投げ上げたりする感じや行為を通して、形や色の組み合わせや自分でしたい活動のイメージをもつ。	教師：カラーポリ袋（各色）、かさ袋、モール、セロハンテープ、カラーペン 児童：身近にある袋	袋という柔らかい平面的な材料に空気を入れたり、何か詰めたりして、自分の好きな立体的な形をつくっていく活動は、布を使っての造形遊びや、布製品に詰め物をしたり、固めたりして立体的に表す活動などへとつながっていく。
	4時間 教科書16ページ	表現 (2) 工	 みのまわりのざいりょうをつかって、はしをかざる	うきうきボックス	☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う題材である。 材料の形や色の美しさを考えて、たのしく箱を飾る内容である。 容器の材質の特徴を生かし、いろいろなタイプの箱を飾ることをたのしむ。 集めた容器の特徴から発想してつくる場合と、どのような箱にしたいかを考えてから容器を探してつくる場合の両方があってもよい。	関：容器の形や色などの特徴に気づき、「うきうきボックス」をつくることに興味や関心をもつ。 発：容器の特徴をもとに、たのしい飾りをつけた「うきうきボックス」を考える。 創：丈夫な接合を工夫し、たのしい形や色の「うきうきボックス」をつくる。 鑑：お互いに見合い、たのしんだり、よさを話し合ったりする。 [共] 紙の箱の形や色をもとにして、つくりたい「うきうきボックス」のイメージをもつ。	教師：造形紙、色紙、化学接着剤 児童：紙容器や紙箱、はさみ、セロハンテープ、ひも、リボン、クレヨン、カラーペン	空き箱を使った活動は幼児期に行っているだろうが、箱に様々な身近材料を、いろいろな方法で接着・接合していく学習については、9年間を通して経験を積んでいく必要がある。
	2～4時間 教科書17ページ	表現 (2) 絵	 おはながみのはりかたをくふうする	はるはるおはながみのえ	☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。 ここでは、紙と洗濯のりの快い感触を味わいながら、色の抽象的な形を思いのままにたのしむことを通して、造形的に表現する内容である。 各自の色感や形態感を大切に、紙を丸めたり、折ったりしながら、薄めた洗濯のりをつけて台紙に貼っていく。偶然にできる不安定な形や色、重なり、感触などのおもしろさをたのしみながら表現していく。作品が乾くと、また違った感じが味わえる。	関：紙の快い感触を味わいながら、心を開いて表現する活動をたのしむ。 発：自分の感覚を大切に、紙の色や不定形な形、感触などから想像を広げ、表したいものを思いつく。 創：自分が表現したいすきな感じを工夫しながら、「お花紙」を洗濯のりで台紙に貼る。 鑑：紙の色や操作してできた形、感触などで表しながら、見つけたことをもとに自分が気に入ったところを発表する。 [共] お花紙の貼った形や色をもとに、つくりたいイメージをもつ。	教師：画用紙、お花紙（各色）、洗濯のり、画板、ボウル 児童：タオル	材料や表現方法から発想を広げる題材である。材料が同じでも表現方法が発達の段階に応じて変化していくなど、9年間を通して系統的に扱うことになる題材である。

1学期・22時間	2～4時間 教科書 20 ページ	表現 (2) 絵	 たのしむ	※クルクルぐるーり	<p>☆心を開いて、友達のことを知り、材料をたのしむ題材である。</p> <p>絵の具を筆で塗る快さを味わいながら、思いのままに「グルグル」をかいたり、イメージしたものをかき加えたりして、造形的に表現することをたのしむ内容である。</p> <p>「グルグル」は幼児のスクリブル(錯画)を活用したもので、1年生の子どもにとっては抵抗がない表現である。これにより、かくことのたのしさや快さを経験させ、自信をもたせたい。表したい感じの色や筆を選び、思いのままにかいていく。かいたグルグルから各自がイメージを広げ、かきたいものをつけ加えて表現することもできる。</p>	<p>関: 絵の具を筆で塗る快さを味わいながら、心を開いてかく活動をたのしむ。</p> <p>発: 「グルグル」を思いのままにかくことから想像を広げ、お花やその他、表したいものを思いつく。</p> <p>創: かく筆の太さ、手を動かす速さや強さによる筆触、色の違いなどの表し方を工夫する。</p> <p>鑑: それぞれの「グルグル」や、それらからイメージを広げた表現の違いやよさに気づく。</p> <p>【共】 「クルクルぐるーり」という言葉をもとに、自分で表したい形や色のイメージをもつ。</p>	<p>教師: 共同絵の具、画用紙、色画用紙、段ボール、画板、小皿、バケツ、タオル、新聞紙</p> <p>児童: タオル</p>	<p>筆で線をかいたり、面塗りをしたりという水彩絵の具の基本的な技能である。</p> <p>小学校の初歩段階での経験であり、技能的なことだけにとらわれず、まずは体全体を使って自由に描くことのたのしさを味わわせ、心を開放していろいろな色や筆使いから生まれる表現をたのしむ。その体験が次学年の絵画への意欲につながっていく。</p>
	2～4時間 教科書 21 ページ	表現 (2) 絵	 てやぶびをつかってかくのをたのしむ	※てでさわってかくのきもちいいー	<p>☆心を開いて、友達のことを知り、材料をたのしむ題材である。</p> <p>絵の具の快い感触を味わいながら、直接指や手のひらで思いのままにかいたり、塗ったりする活動を通して、造形的に心を開く内容である。液体粘土に共同絵の具を混ぜ合わせて描画材料をつくる。指や手のひらを使って、液体粘土の感触を味わいながら、思いついたものを直接、画用紙にかいていく。</p> <p>絵の具が乾いたらクレヨンなどでかき加えて、イメージをよりはっきりと表すこともできる。</p>	<p>関: 絵の具を指や手のひらにつけて、かいたり、塗ったりする快さを味わいながら、心を開いてかく活動をたのしむ。</p> <p>発: 指や手のひらで思いのままにかいたり、塗ったりすることから想像を広げて、動物などの表したいものを思いつく。</p> <p>創: 指や手のひらを動かす速さや強さなどによる絵の具の跡、色の違いなどを生かした表現を工夫する。</p> <p>鑑: 指や手のひらで直接かいたそれぞれの表現の違いやよさに気づく。</p> <p>【共】 だるだる絵の具をつくったり、手でかいたり、塗ったりしながら、形や色をとらえて、自分のイメージをもつ。</p>	<p>教師: 液体粘土、共同絵の具、画用紙、色画用紙、画板</p> <p>児童: 新聞紙、タオル</p>	<p>表現方法から発想を広げる題材である。</p> <p>特に本題材のような触覚感を味わう題材では、表現が抽象的になる。手先を駆使する描画表現の技法追求ではなく、思う存分気持ちを開放して、身体的にかかわる絵画表現では、感じたままに表現することの心地よさを味わわせたい。</p> <p>低学年でこの感覚を養っておくと、活動しながら絵画のテーマを見つけいくことができるようになる。</p>

学期	時間	指導要領	めあてと重点活動	題材名	学習の内容	評価の観点	主な材料・用具	小・中一貫の視点
2学期・28時間	2時間 教科書 22 ページ	表現 (1) 遊	 くふうしてかたづつする	ならべてひろげて	<p>☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。</p> <p>ここでは、色紙や身のまわりにある自然材料（小石や枝木、葉など）や人工材料（空き容器や箱、描画材など）をみんなで集め、気に入った並べ方を工夫する内容である。</p> <p>自分の思いに従って、材料の形や色などを考えながら並べ、ときには友達と協力し合い、活動を広げていく。</p> <p>色紙を並べる活動では、自分たちでルールを決め、身体的な活動をたのしむようにすることもできる。また並べる場所の安全に注意する。</p>	<p>関：材料を並べたり、組み合わせたりして遊ぶことに興味や関心をもち、意欲的に活動に取り組む。</p> <p>発：材料の大きさや形、色などの組み合わせを発想し、たのしい並べ方を構想する。</p> <p>創：形や色の組み合わせを工夫することをたのしむ。</p> <p>鑑：友達や自分のつくった形や色のおもしろさを見つける。</p> <p>【共】 材料を並べたり、組み合わせたりする活動を通して、形や色をとらえ、これをもとにして自分のイメージをもつ。</p>	教師・児童：色紙、身のまわりにある自然や人工の材料。また、それらを分類、保管しておく箱など。	<p>幼児期に石などの小さなものを並べて遊んだ経験から発展した造形遊びであり、より形や色に選択的な注意を払った活動である。</p> <p>大きな色紙では色の美しさやその組み合わせ、いろいろな材料では、形の面白さや大きさなども意識して活動する。様々な材料や自分と友達とのかかわりに目を向ける基礎となる活動である。</p>
	4～6時間 教科書 23 ページ	表現 (2) 立	 かみのはこのかたちからおもいついた どうぶつをくふうしてつくる	どうぶつむらのピクニック	<p>☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。</p> <p>ここでは、紙の空き箱を主材料にして想像を広げ、動物など思いついたものをつくる内容である。</p> <p>空き箱の形や色、大きさ、ふたの開き方などの特徴を生かし、つなげたり、組み合わせたりしながら、思いついたものを表現する。</p> <p>完成後は、友達どうし互いの作品で遊んだり、話を聞き合ったりしてたのしむ。</p>	<p>関：紙の空き箱を主材料にして好きな動物をつくったり、みんなで飾ったりしてたのしむ。</p> <p>発：つくってみたい動物を思いつき、空き箱を選んだり、その形や特徴を生かしたりして、自分らしい表現を追求する。</p> <p>創：空き箱を切る、つなぐ、貼り合わせるなどして組み合わせ、表したい感じを工夫する。</p> <p>鑑：友達の思いついた動物の形やおもしろさ、よさなどに気づく。</p> <p>【共】 空き箱の特徴を生かした活動を通して、その形や色をとらえ、それをもとにできそうなことから自分のイメージをもつ。</p>	教師：画用紙、色画用紙、色紙、接着剤、ビニルテープ、両面テープ 児童：空き箱、空き容器、ひも類などの身近材料、クレヨン、はさみ、カラーペン	<p>空き箱などを利用して立体的な動物を表す題材である。主題としては「動物」になり、他の題材でも同じテーマが考えられるが、材料の違いによって表現方法が違ってくる。</p> <p>ここでは、形や材質が異なる紙の接着・接合方法を習得する。9年間にわたって異なる材料どうしの接着・接合は経験を重ねて習熟していく必要がある。</p>

2学期・28時間	4時間 教科書 24 ページ	表現 (2) 	 おもしろいことや、みたことをもとに、 おもしろいことをくふうしてかく	できたらいいな、こんなこと	☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。 生活の中で経験したことを思い起こし、それをきっかけに空想を広げながら、絵に表すことをたのしむ内容である。 たのしかった遊びの思い出や、してみたいことから、今度はこうだったらいいなという思いをふくらませ、自由な想像を広げて、思いのままに表す。	関：生活の中で経験したことをもとにイメージを広げ、想像しながらたのしんでかく。 発：想像したイメージをふくらませ、空想を広げてたのしむ。 創：材料選びや表し方など、自分らしい工夫をたのしみながら、想像したことの感じを表す。 鑑：自分や友達の作品から、発想や想像のたのしさを感じ取る。 【共】好きなものやたのしかったことを思い浮かべて、その形や色をもとに、「できたらいいなこと」のイメージをもつ。	教師：画用紙（各色、サイズ違いをいくつか）、共同絵の具 児童：クレヨン、カラーペン、色鉛筆	経験したことや、経験してみたい憧れなどを表す絵画表現。様々な描画材を使って、表現の幅を広げる題材である。 水彩、カラーペン、クレヨン、パスなど自分の思いに合わせて描画材や表現技法をえらぶことで、絵画表現の自己選択、自己決定ができるようになる基礎となっていく。
	4時間 教科書 25 ページ	表現 (2) 	 かんたんなくみで、こうく おもちゃをつくる	おさんぽトコトコ	☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う題材である。 ここでは、乾電池のような円柱状のものに細い棒を取りつけ、そこにストローに貼った厚紙を取りつけて、それが転がりながら上下動をする仕組みを生かした動くおもちゃをつくる内容である。 厚紙の上に取りつける飾りを考えてつくり、二つ組み合わせてお話づくりをするような気持ちで動かしながら鑑賞する。 つくる、遊ぶ、改良するという活動をたのしむ。複数個つくってたのしむこともできる。	関：転がりながら飾りが上下に動くおもしろさをたのしむ。 発：動きの特徴に合わせて飾りをつけたり、絵をかいたりして工夫する。 創：転がるしくみと動くしくみのつくり方を理解しながら、よく転がるおもちゃをつくる。 鑑：友達とたのしく遊びながら、作品のよさや工夫を感じ取る。 【共】動くしくみから思いついたおもちゃを、形や色の組み合わせを思い浮かべ、自分のつくりたいおもちゃのイメージをもつ。	教師：細い竹ひご、色画用紙、片面段ボール、ストロー、テープ類、接着剤（断面接着をする際は接着剤が便利） 児童：転がるもの（単1乾電池や紙筒など）、カラーペン、はさみ	動きを生かした工作としては、1・2下の「コロコロ大さくせん」につながる題材である。ここでは、簡単な仕組みを使って、仕組みから想像するおもちゃを各自が工夫する。 仕組みは同じでも、できるものが違うことをたのしみ、たのしく遊ぶだけではなく、仕組みを理解してよく転がるものをつくるのが大切である。
	2～4時間 教科書 26 ページ	表現 (2) 	 かいたものをかいたり、こうかん したりしてたのしむ	つたえよう、わたしのすきなかたちいろいろ	☆心を開いて、友達のことを知り、材料をたのしむ題材である。 ここでの活動内容は二つあり、教師選択となる。 一つめは耐水紙にカラーペンやアクリル絵の具などを使って自分の好きなものをかき、行事などで飾れる旗をつくることである。 二つめは小さな紙にシールやカラーペンを使ってマークや絵、自分の紹介などをかき、名刺をつくって友達と交換し合う活動である。どちらも表現活動を通して、自分自身の心を開き、相互理解を図り、友達とかかわり合う内容である。	関：マーカーでかいたりシールを貼ったりして、かいたものを飾ったり交換したりして、材料や友達などとかかわり合うことをたのしむ。 発：飾りにしたいものや伝えたいことを考えて、表したい内容を構想する。 創：表したい内容に合わせて、材料や用具を工夫して表す。 鑑：友達の表し方や工夫したことについてよさを認めたり、自分の活動との違いに気づいたりする。 【共】シールや紙の形や色を考えて、つくりたい自分のカードのイメージをもつ。	<自分の旗> 教師：耐水性不織布、布、顔料マーカー、油性マーカー 児童：クレヨン、パス <自分のカード> 教師：小さく切った色画用紙やアート紙など、いろいろな大きさや色のシール 児童：カラーペン、はさみ、のり	相手のことを考えて表す、という系統の題材である。 造形によるコミュニケーションのスタートは、シールや身近な手のひらサイズの紙などを使って好きな形や色を構成し、クラスの友達と交換するという、1・2下の絵手紙や3・4下の「ハッピーカード」、5・6下の「伝え方をたのしもう」につながっていく題材である。

学期	時間	指導要領	めあてと重点活動	題材名	学習の内容	評価の観点	主な材料・用具	小・中一貫の視点
2学期・28時間	4時間 教科書 27 ページ	表現 (2) Ⅱ	 かみをまるめたり、ねじったりして おもいついたものをくふうする	くしゃくしゃがみからうまれたよ	☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。 ここでは、薄紙を丸めたり、ねじったりしてできた偶然の形を組み合わせながら、思いついたり、想像したりしたものを自分らしく表現してたのしむ内容である。 色薄紙を丸めたり、ねじったり、広げたりしてみると、いろいろな形に見える。このようなことから発想し、想像を広げてつくり方を工夫する。 平面的・半立体的・立体的などの表現スタイルは、子どもの表し方にまかせ、思い思いに活動をたのしませたい。	関: 色薄紙をくしゃくしゃにする操作から、形を見つけて表すことをたのしむ。 発: 形や色からイメージを広げて、表したいことを思いつく。 創: 思いついたことから想像を広げて、形や色の組み合わせ、つくり方を工夫して表す。 鑑: 友達のいろいろな工夫に気づき、自分の表し方にも取り入れる。 【共】 色薄紙を操作してできた形や色の組み合わせなどを試しながら、自分の表したいもののイメージをもつ。	教師: 色薄紙 (商品名「カラペ」という紙が最適)、画用紙 児童: のり、タオル、(はさみ)	紙の触覚感や特質から想像したものをつくる題材である。これは材料や表現方法から発想を広げる内容で、材料が同じでも表現方法が発達の段階に応じて変化していくなど、9年間を通して系統的に扱うことになる題材である。 「はるはるおはながみ」と系統的につながっている。
	2時間 教科書 28・29 ページ	表現 (1) Ⅲ 鑑賞	 かたちやいろをたのしみながら、かたおしやこすりだしなどをくふうしてかっこよくする	うつつしてあそぼう	☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。 ここでは、型押しやこすり出し遊びを通して、自分らしい造形的な表現を追求したり、発見したりする内容である。 ここでの活動は「写すこと」を中心的な課題として、「モノプリント」「スタンピング」「粘土の型押し」「フロッタージュ」の、大きく四つの内容でくくられている。 いろいろな写し方を試しながら、できた形や色をたのしんだり、自分なりの表現のしかたを工夫したりする。	関: 写し方を見つけ、その集めた型で写すことに興味や関心をもつ。 発: 写し具合を想像しながら、繰り返し試し、自分のイメージを広げる。 創: 自分なりのイメージに近づけるために、絵の具の濃さを工夫したり、型の押し方や押す場所などを工夫したりして表す。 鑑: それぞれの活動の違いに気づくとともに、友達の表し方のよさや違いを互いに認め合う。 【共】 様々な形を写し取る活動を通して、形や色をとらえ、これをもとに自分の表したいイメージをもつ。	【モノプリント】 教師: 共同絵の具、画板、ビニル袋、画用紙 児童: ひっかくもの、新聞紙、タオル、エプロン 【スタンピング】 教師: ロール紙、共同絵の具、トレイ 児童: 型押しのもの、葉っぱ、ケーキ型など 【粘土の型押し】 教師: 紙粘土、粘土板 児童: 型になるもの、クレヨン 【フロッタージュ】 教師: 上質紙 児童: クレヨン、色鉛筆	すべての版表現の基本的な活動である。ここでは、結果としての作品づくりよりも、活動そのものをたのしむ造形遊び(版遊び)で、写し取るたのしさを十分に味わうという経験をもとにして、発達の段階に応じて、紙版画、雑材による版画、木版画などへと発展していくことができる。

3 学期・18 時間	2 時間 教科書 30・31 ページ	表現 (2) 絵	 すきなものをかいてみる。かいたものに目や手足をかき加えると、ものたちはたちまち生き物に生まれ変わる。	ともだちをつくる！ ☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものを見方や考え方を養う題材である。 画用紙に食べ物や飲み物、花や果物、遊ぶ物や使う物、飾る物、乗り物や建物など、思いついた好きなものをいくつもかいてみる。かいたものに目や手足をかき加えると、ものたちはたちまち生き物に生まれ変わる。 最も気に入ったものに名前をつけて、自分の友達(自分マーク)にする。自分マークを自分の印として様々なところで使う。自分マークを友達と紹介し合い、相互にかいて遊ぶ。	関:ものに目や手足をかき加えると、ものの変化し、生き物に生まれ変わることに興味や関心をもつ。 発:好きなものに目や手足をかき加えながら、たのしい生き物を思いつく。 創:好きなものの形や色を生かし、目や手足を工夫して生き物をかく。 鑑:「自分マーク」を友達と紹介し合ったり、かき合ったりして相互の表現の特徴やよさ、違いなどに気づく。 【共】自分の感覚や活動を通して、好きなものの形や色をとらえ、それらに目や手足をつけ加えるなどしながら生き物としてのイメージをふくらませる。	教師:画用紙(八つ切り、32 切り) 児童:カラーフェルトペン、クレヨン	様々なものに目をつけることで、無生物を生き物に見立てる活動であり、それをオリジナルの「自分マーク」として表す題材である。 自然物の形や色を何かに見立てたり、建造物などの造形の中に顔を見つけたりして、視点を少し変えることで表現や活動が広がることを体験する活動である。
	4 ～ 6 時間 教科書 32・33 ページ	表現 (2) 工	 は「の」つかいかたをくふうして	ゆめのまちさんちようめ ☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。 ここでは、空き箱の形を生かしたり、切り分けたり、つないだりして、自分が暮らしてみたいと思う家や建物をつくる内容である。 家族などもつくって、暮らしの様子を想像しながらつくとたのしい。 でき上がった家は、みんなで並べて町づくりを進めれば、さらに豊かに活動が広がっていく。	関:住んでみたい家をつくったり、遊んだりする活動をたのしむ。 発:遊んだり、想像したりしながら、つくってみたい家のイメージをふくらませる。 創:紙箱や紙を切る、組み合わせる、貼るなど、自分らしい表し方を工夫してつくる。 鑑:自分たちの家を並べて町をつくり、交流して遊びながら互いのよさを感じ取る。 【共】空き箱の使い方を工夫しながら、形や色をとらえ、これをもとに自分のイメージをもつ。	教師:画用紙、色画用紙、ホチキス 児童:あまり厚くない紙でつくられた空き箱、クレヨン、カラーペン、のり、はさみ、洗濯ばさみ、セロハンテープ	空き箱で夢の家をつくる活動で、箱の中や、箱どうしをきちんと接着する技能が要求される。空き箱と紙などの材料を接着して動物をつくる題材の系統で、家は自分の想像力を使って、どのような家にするのかを試行錯誤しながら、創造していくことを大切にする。 また、でき上がった家を持ち寄り共同として街をつくることで、コミュニケーション活動の基礎ともなっている。
	2 ～ 4 時間 教科書 34 ページ	表現 (2) 絵	 せいかつのはなでたのしかった	えがおうしん にっしゅニュース ☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものを見方や考え方を養う題材である。 ここでは、誰かに話したくなるようなうれしかったこと、たのしかったこと、したことや見たことなどを思い浮かべ、簡易な描画材料(パス、カラーペンなど)で絵に表す内容である。 伝えたいことや表したい自分のテーマを見つけ、自分らしい表し方で表すことが大切である。	関:心に残ったことを自由に絵に表すことをたのしむ。 発:自分の経験したことの中から、うれしかったことなど、表したいことを見つける。 創:自分らしい表し方で、たのしかったことの感じを表す。 鑑:自分や友達の作品のよさを見つけながらたのしく見る。 【共】生活の中の出来事をもとに形や色をとらえ、自分の感覚を通して表したい絵のイメージをもつ。	教師:画用紙、共同絵の具 児童:クレヨン、パス類、カラーペン	自分の経験を生かして表す題材であり、経験の中のどの場面を切り取って表すのかを自分で決定していくことを大切にする題材でもある。自分なりのイメージをもつことを大切にすることは、自他のイメージを認め合うことの基礎になり、多様な表現を促す基礎となる。 また、描画材は何を使いたいのか、どのような紙に描きたいのかも子どもに選択させていきたい。

学期	時間	指導要領	めあてと重点活動	題材名	学習の内容	評価の観点	主な材料・用具	小・中一貫の視点
3学期・18時間	2時間 教科書 35 ページ	表現 (1) 遊	 おおきなかみをつかって、たのしくかざろう	おおきなかみでわっくわく	<p>☆心を開いて、友達のことを知り、材料をたのしむ題材である。</p> <p>ここでは、いつもは触れることのない大きな紙と出会うことで心を開き、その大きさや手触りから思いつく活動を通して、材料に働きかけたり、友達とかかわり合ったりするたのしさを味わう造形遊びの内容である。</p> <p>紙の大きさや触り心地を体全体で感じ、そこから自分のやりたい思いをもつ。ひねる・丸める・包む・身にまとうなど、自分の思いを表す活動をしながら、材料のよさを見つけたり、友達と一緒に活動したりする。</p>	<p>関：大きな紙に進んで働きかけ、活動することのたのしさを味わう。</p> <p>発：材料にかかわりながら得たイメージから自分のやりたい思いをもったり、活動しながら感じたことから思いついたりする。</p> <p>創：材料の手触りや大きさを生かしながら、丸めたり、広げたり、組み合わせたりするなど、体全体を動かして活動する。</p> <p>鑑：材料を体全体で感じるとともに、自分や友達の活動を見合ったり、それについて話したりしながら、表し方のおもしろさに気づく。</p> <p>【共】 紙の感触を味わいながら、ひねる、丸める、包むなど、形や色の組み合わせを試し、自分でしたい活動のイメージをもつ。</p>	<p>教師：大きな紙（薄葉紙（うすようし）、新聞紙、包装紙、クラフト紙）</p> <p>児童：身近にある大きな紙（広告、新聞紙）</p>	<p>大きな紙に全身でかかわっていく活動である。紙の柔らかさなどの感触や、操作性を試行錯誤するなかで体感することを大切にしている。</p> <p>この活動の体験が、大きな布や段ボール、自然材などの様々な材料体験へとつながっていく。</p>
	4～6時間 教科書 36・37 ページ	表現 (2) 工	 ざいりょうやつくりかたをくふうして、たのしみながらつくる	「しろを」めてプレゼント	<p>☆心を開いて、友達のことを知り、材料をたのしむ題材である。</p> <p>ここでは、既習の学習を生かし、材料の組み合わせやつくり方を工夫して表現していく内容である。</p> <p>卒業していく6年生、新しく入ってくる1年生、おじいちゃんやおばあちゃんなどに完成した作品を渡して、造形活動から交流を深めていく。</p>	<p>関：プレゼントをもらった人が喜んでくれるような作品をつくることをたのしむ。</p> <p>発：今までの経験を振り返りながら、材料やつくりたいものを考える。</p> <p>創：材料の選択やつくり方を工夫しながらプレゼントをつくる。</p> <p>鑑：プレゼントを渡しながら、友達の作品のよさや工夫を感じ取る。</p> <p>【共】 形や色、材料の組み合わせなどを試しながら、それらがつくり出す形の感じをとらえ、自分なりのイメージをもつ。</p>	<p>教師：色画用紙、色紙、紙粘土モール、共同絵の具、接着剤など</p> <p>児童：空き容器、リボン、身近材料、カラーペン、のり、はさみなど</p>	<p>今までに学んだことを活用する総合的な扱いの題材である。</p> <p>プレゼントする人を考えて、材料もつくり方も自己選択し、表現していくことが大事である。自分でつくりたいものをイメージし、材料も自分で選んで表現していくことは、すべての自己表現の基礎である。</p> <p>また、習得した技能などを活用することは、学びの定着を図ることにつながる。</p>

頁	指導 要領	題材名	学習の内容	主な材料・用具
教科書2～4ページ	鑑賞	ちいさなびじゅつかん	<p>巻頭の「小さな美術館」では、各学年の子どもたちの興味・関心にあわせた作品を掲載するだけではなく、それぞれの作品について鑑賞の観点のうちの一つを吹き出しで入れた。また、1ページ大で扱う作家作品を必ず取り上げ、教室での鑑賞資料として十分に対応できるようにした。</p> <p>ここでは、一人一人が大切であることをテーマに、人物や動物など生命感あふれる作品を掲載した。</p>	
教科書6～7ページ	鑑賞	ゆめをかたちに	<p>子どもたちがその学年で出会う材料や表現方法を使っている作家の作品と子どもたちへのメッセージである。</p> <p>ここでは、絵本作家の荒井良二さんに登場していただき、体全体を使って思い切りかくたのしさやわくわくする感覚をやさしい詩的な文で語ってもらった。</p>	
教科書18・19ページ	表現 (2) [エ]	ひらめきコーナー	<p>生活を楽しくするものの用途などを考えながら、思いのままに表すことを楽しむ内容である。</p> <p>ここでは、紙を折ったり、切ったり、ちぎったりして、低学年の児童でも簡単にできる紙工作を提案している。</p>	<p>教師：色画用紙、紙皿、ホチキスなど</p> <p>児童：色紙、はさみ、のりカラーペンなど</p>
教科書38～40ページ	鑑賞	みんなのギャラリー	<p>暮らしを豊かでたのしいものにするために造形が果たす役割は大きい。そのために、子どもたちに関心をもてそうな行事や祭り、イベントなどを紹介している。</p> <p>ここでは、「みんなでいっしょに」「にっぽんのまつり」「むかしからのおもちゃ(伝承玩具)」「きょうしつをとびだして」の四つのテーマでくくっている。</p>	

教科書 41 ～ 43 ページ	表現 (2) [絵] [工]	パレット・ 道具箱・ コーナー	<p>道具は、造形活動においては、材料とともになくてはならないものである。子どもたちも自らの思いを実現させるために、道具の正しく合理的な使い方を知ることは大切なことである。そのための手引きのページである。また安全指導では「気をつけて！」のコーナーを設けた。ここでは、はさみとのりの使い方について掲載した。紙工作をするときに活躍する道具であるが、いろいろな学習や活動の場面で使われるので、繰り返し活用し、自分の手のように扱えるようにしたい。</p> <p>「ざいりょうはたからもの」では、材料を集める一つの視点として、はさみで切れる程度のものを提案している。</p> <p>また、「パレットコーナー」では、工作の道具以外に、描画材の使い方の基本を示した。ここでは、クレヨン・パスおよびカラーペン・顔料マーカーの使い方を示している。</p>	
教科書裏表紙	鑑賞	つながるぞうけい あそびのなかから	<p>「つながる造形」をテーマに、各学年に応じて、情景写真や授業写真などを掲載し、図画工作科からつながっていく、あるいは、広がっていく内容を掲載している。ここでは、普段の「あそびのなかから」友達どうしの鑑賞の姿やコミュニケーションの様子を示している。</p>	